

# RESCUE VOICE II

## 敵の见えない救助活動

### ～空中戦～

# No.1

## 警防課(救助)

### はじめに

あのレスキューボイスが、22年ぶりに、装いを新たに始まります。

昨今、大阪市内で急増している救助事案は、一日平均8件以上、二年間で3,000件を優に越す程度にまで増え続けています。

そんな救助現場の最前線で活躍する救助隊長にスポットをあて、ご紹介していきます。

さあ、56人の救助隊長が、その時何を思ったか：現場の「声」に迫ります！

今回は、大阪市内のビジネス街において、地下掘削工事付近の道路が小規模に陥没し、現場作業員が穴の中の状況を確認中、突然陥没が拡大し、作業員1名がアスファルトもろとも転落し、負傷した事案である。

### 事案概況

覚知日時	1月20日(金)
消防隊到着	21時32分
救出完了	21時34分
所要時間	22時26分
負傷者	52分
(工事関係者)	55歳男性
	左大腿骨骨折

### 救助指令

真冬の寒風吹きすさぶ雨上がりの夜、その指令は流れた。「救助指令○○管内、工事中に道路陥没し作業員が落下：」

陥没？発生場所付近では以前から地中の掘削工事が行われている。その影響であろうか？だとすれば先般福岡市で発生した大規模な道路陥没の様子も一瞬頭をよぎる。

消防の資器材で対応できる規模かどうか。

### 活動初期

現場到着時、発生場所付近は大勢の現場作業員が集まっているが同僚を救出する術はない模

様で、その中の数名が消防隊に情報を提供しようと駆け寄ってきた。「50歳台の同僚が穴の中にいる。声はするが動けないよう

だ。深さはおそらく5～6m程度」情報を聴取しつつ歩を進めると先程の作業員たちは道路の一角を囲むように立っている。彼らが指差す真ん中に直径2～3m程度の穴が見えた。その穴の付近には足場板が複数枚敷かれている。

足場板上から有毒ガス等の環境測定を行いつつ中の様子を伺うと、要救助者の方の姿が見えた。体幹は南向きで顔はこちらを向いている。声をかけるとしっかりと返答する。意識は清明で左足の痛みを訴えている。環境測定結果は異常なし。

陥没した穴の空洞の深さは5～6m、幅は南北5～6m程度、要救助者の西側は2m程度であった。要救助者の東側はこちらの足元の部分であり、確認が困難なため要救助者に尋ねると3m程度は空洞であるとのこと。事実であればこの足場板の